

# LIVE REPORT

HOME > CONCERT/LIVE REPORT



contact us

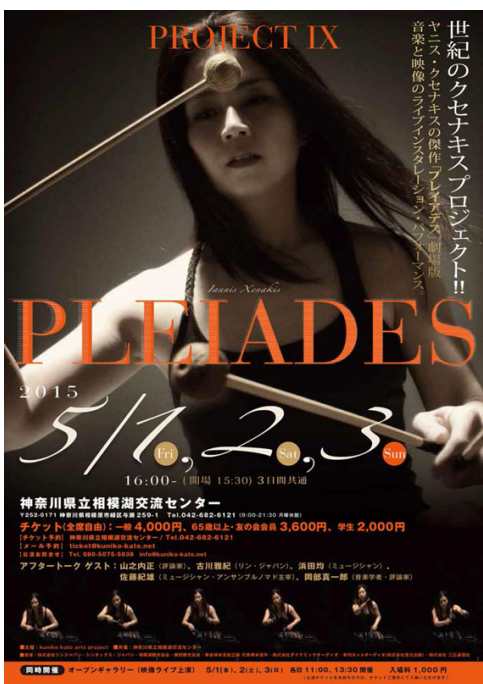
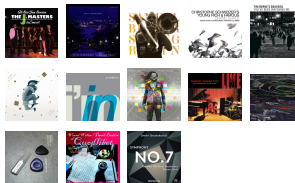
search

## Concert Report #815

## PROJECT IX PLEIADES

2015年5月2日 神奈川県立相模湖交流センター (神奈川県相模原市)  
Reported by 多田雅範 (Masanori Tada)

### FIVE by FIVE 注目の新譜



### - PROGRAM -

ヤニス・クセナキス：プレアデス～6人の打楽器アンサンブルのための～  
(映像+サウンドインスタレーション)  
※6人の加藤訓子が等身大で巨大スクリーンに映し出され、192k 24bitオーディオで収録されたスタジオマスターのハイレゾ音源は、あたかもそこに6人の奏者がライブ演奏しているかの如く臨場感溢れる音場を創り出す。

ヤニス・クセナキス：ルボン～打楽器ソロのための～  
(加藤訓子によるライブパフォーマンス)

### NEW 5.31 '15

#### FIVE by FIVE :

- #1207 『All Star Jam Session THE J・MASTERS in Concert』 (ビットインレーベル) 望月由美 | #1208 『明田川荘之/ライヴ・イン・函館「あうん堂ホール」』 (AKETA'S DISK) 望月由美 | #1209 『Samuel Blaser Quartet/Spring Rain』 (Whirlwind Recordings) 伏谷佳代 | #1210 『Christophe Schweizer's Young Rich & Famous/Grand Grace』 (Between the Lines) 伏谷佳代 | #1211 『Tim Berne's Snakeoil/You've Been Watching Me』 (ECM) 多田雅範 | #1212 『Donny McCaslin/Fast Future』 (Greenleaf) 常盤武彦 | #1213 『Joe Fiedler Trio/I'm In』 (Multiphonics Music) 常盤武彦 | #1214 『Marc Cary Rhodes Ahead Vol.2』 (Motéma Music) 常盤武彦 | #1215 『Manuel Valera/Trio Live at Firehouse 12』 (Mavo Records) 常盤武彦 | #1216 『Mikko Innanen with William Parker and Andrew Cyrille/SONG FOR A NEW DECADE』 (TUM Records) 剛田武 | #1217 『Han-earl Park, Catherine Sikora, Nick Didkovsky, Josh Sinton / Anomic Aphasia』 (Slam Production) 剛田武 | #1218 『Weasel Walter & David Buddin/Quodlibet』 (Not On Label) 細田成嗣 | #1219 『ショスタコーヴィチ：交響曲第7番 八長調 Op.60 「レニングラード」』 (PENTATONE CLASSICS) 藤原聡

#### COLUMN :

連載フォト・エッセイ：Reflection of Music 39 「ウイリアム・パーカー」横井一江 | 撮っておきの音楽家たち #107 「ロベルト・ホル」(歌手/バス・バリトン) 林喜代種 | 撮っておきの音楽家たち #108 「佐藤豊彦」(リユート奏者) 林喜代種 | カンザス

### 21世紀を拓くパーカッション体験。

ついに加藤訓子を体験した。2011年だった、たしか吉祥寺のサウンドカフェ・ズミでECMイベントを終えてのアフターアワーズで、信頼する耳の友人が「ちょっと、これを見てください」とプロジェクトに映したのがプレイズ・ステイプ・ライヒのライブ映像だった。これはCDではなくライブのほうだなと直感、それから春日部の公演チケットを予約しては行けなかったり、すっぱかしているうちに現代ジャズシーンのほうに耳が集中したりと。4年経ってた。

相模湖でクセナキスを演るといふ。クセナキスを？

会場に入ると、左手にリン・スピーカーの視聴スペースになっていて、クセナキスの作品が流れている。やっぱり、いい音だ、リンのスピーカー。壁の両側には、クセナキスの作品を収録したLPレコードが30枚くらい並んでいる。おれが持っているクセナキスのレコードは3枚あった、懐かしい。うわあ、70年代の時代精神が溢れている。前衛がとつても輝いていたあの頃。いや、60年代のことかな、50年代のことかな、科学と未来が輝いていた時代にしか鳴らない音楽。

L Pレコードを聴きながら、もう、これと同質な演奏は再現することはできないのだな、と、感じた。今のひとが演奏すると今の身体の一の音楽になってしまうだろう。

クセナキスのLPはリン・ジャパンの古川雅紀さんのものかな。LPレコードを聴いて、反対側のコンサートホールに向かう。

入ると、フラットな板張りに打楽器セットが置かれ、6つのスピーカーに囲まれている。

上方に幅1.5mほどの白い横断幕。タイトルが映し出されている。半透明なので後方の暗がりにも映像が透けて、二重の視覚になる。

クールだ。なぜにか、フロアに裸足になって鑑賞体勢になっている自分がある。

加藤訓子が登場し、作品の紹介。コンサートが始まると、加藤訓子は引っ込んで映像が続く。

6人のパーカッションで演る楽章を、全部加藤訓子が演奏して重ね録音している。映像も、合成されて6人の加藤訓子が躍動している。

ううう。楽しい！クセナキスって、こんなにポップだっけ？ディズニーランドのアトラクションのひとつにそのまま出てきてもおかしくないくらいだ。映像だけでも大満足なくらいだけど、最後の楽章は、本人が出てきてライブ演奏。

ジスイズポップ！この躍動。

ゲンダイオンガクから開放された21世紀の表現になっている。やがてプロジェクトXにもなって、プロフェッショナル仕事の流儀にもなって、ようこそ先輩にもなって、ファミリーヒストリーにもなるはずだ。

昔、クセナキスの作品に感じた、サウンドの向こう側にジャンプするための、数学を応用しているという手がかかりや、出てきたサウンドはクセナキスの意図の範囲内にあるだろうかという手探り、それら壮大な手の届かないところに意識を集中させることで襲われることとなるデモーニッシュな体験、は、あれは、時代のものだったのだ。

(もしかしら、今もデモーニッシュなゲンダイオンガクはどこかに生きているかもしれない。生きていてほしいとは思っている)

加藤訓子はライヒ、ベルト、クセナキスと取り組んできています。ライヒもベルトも、ECMアイヒャーによって見出され、それぞれにゲンダイオンガクの風景を一変させた作曲家だ。一変させたくらいだから、クセナキスは古いほうのゲンダイオンガクのアイコンだ。ライヒも、ベルトも、クセナキスも、同じ躍動に濾過されている。ECMのコリア=パートンを聴いたのだろうか、ジャズのヴィブラフォン奏者浜田均に師事したことがあるという。加藤訓子の躍動するマレットさばきと、地続きの感覚だ、とても納得できる。

新しい体験を滋養にして育った奏者が、70年代の演奏をできる道理も必然もない。必ず、新しい表現になる。

加藤訓子の演奏身体には、ヨーロッパ人が演っている感触は無い。音楽大学でクラシックの鍛錬をした痕跡が消えている。鍛錬を突き抜けた場所、群を抜いている、いろいろパーカッションを捜索してみるが、ううむ、ゲイリー・パートンのマレットさばきと大相撲夏場所の寄せ太鼓・一番太鼓を足した方角を指さすとも、言えるか。

この表現はクセナキスではない、加藤訓子だ。と、口をついて出たけれど、クセナキスでないとは言えないだろ、これもまたクセナキスなのだから、と自分に反論している。これは加藤訓子だけが可能な身体表現だ。20世紀の判断基準が効かなくて、強くて新しい。欧米のクリティークで、より絶賛度が高いことだろう。

加藤訓子とリン・ジャパング川雅紀のタッグが、塗り替えたのだ。

(多田雅範)



多田雅範 Masanori Tada / Niseko-Rossy Pi-Pikoe.  
1961年、北海道の炭鉱の町に生まれる。東京学芸大学数学科卒。元ECMファンクラブ会長。音楽誌『Out There』の編集に携わる。音楽サイトmusicircusを堀内宏公と主宰。音楽日記Niseko-Rossy Pi-Pikoe Review。

JAZZ TOKYO

BACK NUMBER

シティの人と音楽 #42 「カンザス・シティに会い始めた頃〜どうしてカンザス・シティ？」竹村洋子 | 及川公生の聴きどころチェック#226 『ケース・ジャレット/バーバー：ピアノ協奏曲、バルトーク：ピアノ協奏曲 第3番 他』(ECM/ユニバーサル・ミュージック) 及川公生の聴きどころチェック#227 『藤井郷子オーケストラベルリン/一期一会』(LIBRA) 及川公生の聴きどころチェック#228 『若林千春/玉響(たまゆら)びあにっシモ』(ライブノーツ/ナミレコード) 及川公生の聴きどころチェック#229 『ゲイリー・ピーコック・トリオ/ナウ・ディス』(ECM)

JAZZ RIGHT NOW :

Report from New York (今ここにあるリアル・ジャズ - ニューヨークから) #03: 「ライブの魅力」剛田武 | 「連載第3回: ニューヨーク・シーン最新ライブ・レポート&リリース情報」シスコ・ブラッドリー | 「新連載: よしだのこのNY日誌」吉田野乃子 | 「ウィリアム・パーカー・インタビュー<前編>」シスコ・ブラッドリー

CONCERT/LIVE REPORT :

#810 「大野和士 東京都交響楽団音楽監督就任記念公演 | 第786回定期演奏会Bシリーズ」藤原聡 | #811 「東京春祭マラソン・コンサートvol.5 《古典派》〜楽都ウィーンの音楽家たち〜音楽興行師ザロモン(没後200年)と作曲家 佐伯ふみ | #812 「東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.6 『ニーベルングの指環』第1日『ワルキューレ』」藤堂清 | #813 「プロッツマン・ジャパン・ツアー2015」剛田武 | #814 「中村恵介クインテット in 上海」中村恵介 | #815 「PROJECT IX PLEIADES」多田雅範 | #816 「PROJECT IX PLEIADES」藤原聡 | #817 「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2015 - PASSIONS 恋と祈りといのちの音楽」神野秀雄 | #818 「イヴリー・ギトリスの世界」悠雅彦 | #819 「ジャン=クロード・ペヌティエ フォーレ夜想曲全曲」佐伯ふみ | #820 「林正樹&西嶋徹」徳永伸一郎

MONTHLY EDITORIAL 今月の注目

01 悠々自適 / 悠雅彦

Vol.65: ハバナのゴンサロ・ルバルカバ/東京でチャーリー・ヘイデンに哀悼を捧げたゴンサロ・ルバルカバ

02 カデンツァ / 丘山万里子

Vol.71 丘山万里子「ドゥダメルと子どもたち」

**HOTLINE JT**

[INTERNATIONAL >>](#) | [LOCAL >>](#)

**JAZZ TOKYO**  
back number

**AFTER HOURS**  
blog **JAZZTOKYO**

[amazon.co.jp](#)

[twitter](#)

Copyright (C) 2004-2015  
JAZZTOKYO.  
ALL RIGHTS RESERVED.